【永代経御志納】

　石津政代殿（東京）　村木末子殿（埼玉）

　　　一金、壱萬圓也　　為先祖

石川末男殿（成恒）

一金、伍萬圓也　　為亡夫　鵜木有朋十三回忌

　　　　　　　　　　為亡母　鵜木澄江二十七回忌

　コロナの影響で本堂にお参りしていただくことができませんので誌上でご紹介させていただきました。

住職がはじめたユーチューブのことですが、はじめにご紹介した「長仁寺チャンネル」はこちらの都合で終了しました。今後は「江本常照長仁寺」と検索してください。一回10分程度の法話を投稿しております。スマホで観られますのでぜひご覧になってください。

　大石先生がご存命のころ、ともにお育てを受けたＨさんと久しぶりに再会しました。大石先生の十三回忌をお迎えする今年になって、縁が遠のいていた方々と、再びお話をする機会が多くなったこの頃です。Ｈさんとは、坊守会で時々お会いすることがありました。お誘いして大石先生の御書信をいっしょに輪読することになりました。ちょうど引っ越しの準備をしているとき、先生から頂いたお手紙やはがきを入れた箱が出てきて、久しぶりに再度目を通させて頂くと、ありがたい教えがたくさんありました。Ｈさんも大石先生からお手紙やはがきを頂かれていて、寺に持って来て頂き、読ませて頂きました。その中の特に心に留まったところをご紹介します。

　　私の師が申されました。

　　「通らんでもよい所を通っておるのではない。通らねばならぬ所を通って

おるのじゃ」また

　　「どれ程、辛くても、そこを通らねば。浄土へ往生できないのじゃ」とも。

　　　　　　（中略）

　　娑婆の旅でも、お念仏の中では浄土への旅路です。ありがたかったです。

　ブラジル布教の旅を終えられた頃のおはがきです。　藤解照海和上のお言葉が記されてあります。

コロナウイルスのために世界中が混迷し、これから世の中は経済的にも落ち込み生活がたいへんになることが予想されます。いろいろな場面で不自由を受けていかねばならなくなるでしょう。聞法によって、これからの私たちに、耐えて往く力が与えられるのではないでしょうか。共に聞法して参りましょう。　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　合掌